

【1】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしの今住んでいるところは、川原につづいた貸家で庭には樹も草もない。^A眩しい日かげに打たれた砂利ばかりである。だから^B滅多に庭へは出ない。ただよくとかげが這うている。鮎色の肌をしているのと、虹のような色をしているのが、まぶしい日光の中を這い出しながら、低い蚊や蠅の飛ぶのを見ている。——暑い日には少しばかりの雑草のかげから、三角形の口を少し上向きにして、^②凝然として何かを狙っている。が、別に蚊も蠅も飛んでいるわけではない。かれは^C唯待ち伏せをしているだけである。ちよつとした物音にも直ぐ頭を曲げて物音のする方へ向ける。……眼も一しよに動く。^③のように柔らかいからだだが砂利の間にたたりと零れると、すぐ這い出して行くのである。そしては又立ちどまって眩しい夏の日光の中にうずくまっている。

わたしは始め二三足くらいだろうと思っていたが、ところどころの石垣の間から出るのを交ぜると十足くらいは居ると思った。かれらは二足ずつ追いかけて合ったりして、庭先きの^D森閑とした昼過ぎに、寂しい^E忌み嫌いされるその姿を現わした。わたしは五六寸もあるかれらの奇体な原始的な姿を庭の内に見出すことが、何となく可愛らしく思われた。手と足で砂利の上を這うている頓馬で其の癖素早い姿が、木彫か何かの古くさいもののように珍らしかったからである。

明るい日光というものは、また夏の午後過ぎというものは余りに明るすぎて、しんとして物寂しいものである。深夜などと違った物静かさで、かげなども^F極く短い真昼には、心をしずめていると何か^G嚙り泣きをしているように思われるくらいだ。人間はそんなに^H睡たくなるものだ。人間が睡たくなるというのは、よくよく考えると日光が真上にかがやいて樹のかげが縮まっているような姿に似ている。——そんなときに、わたしはまた明るい暑い庭さきに立って何か考えている。そして眼の前にはとかげが三四足這うていて、あぶらのように美しい肌を白い砂利の間に躡ませている。何の音もない！

「とかげの尾を切っておやりなさい。ぴくぴく動くやつを切っておやりなさい。」
 そうわたしの頭脳の中で、ひと声が出た。見れば^I尖端ほど細まり鋭くなったとかげの尾が、礫をひとまわりして、寂しく空を向いてはねている。——ふむ、こいつを一つ切つてやろう。わたしの心は瞬時にして悲壮な画面を描くために、やや睡気ざましをそぞろに感じた。わたしは竹切れをさがした。その尖端をナイフで掠め、ナイフと同じいくらいの鋭い刃拵えをした。指頭にさわると西洋剃刀くらいの刃あたりが麗朗として感じられた。——わたしはこれでいいと^J呟いた。これなればあいつの尾くらい切れるだろうと思つた。早くおやり、誰かがそう言う。振りかえると庭のすみの方に下婢が黙つて張物している。うしろ向きになって絹裏を板の上で湿らせ、指さきで練っている。日かげで下婢の顔が赤く恐ろしくなつて見える。……

「何時か?——」
 わたしは下婢にその声をかけた。^K寂寞がわたしをそう呼ばしたのではなく、ただ、何気なく、言わば心にもないことを尋ねたのである。

「何時でございますかしら? 見てまいりましょうか。」
 「いや。」
 ちよつと考へて「二時ころだろうね。」と言つた。
 「まだ郵便がこないところから見ますと、二時ちよつと廻つたくらいでございましょうね。」

わたしはその時に棒切れをとかげの尾にさわらせようとしながら、ぐいと力をこめ、砂利に棒切れの突つ立つ音をきいたが、
 「そんなものだろう。——」

と言つた。てれているのだわたしは? が、とかげは一寸くらいのちぎれた尾を置いて、からだの拍子をとりにくそうに逃げた。きれた尾がぎりぎり舞いながらこまかい砂を動かして、うずを巻いて、これは何という明るい眩しい日になつたろうと思つた。石垣の穴に尾をとられたとかげのかげが消え、紫色にかげつた石の穴が冷やりとして見えた。切られた尾はこれも一疋の虫のようにきりきり舞いしているのが、だんだん力が弱くなりばたりと砂の上に舞わずに落ちてしまった。そして思い出したように少しづつ動いた。二分くらい経つたらうか、こんどは少しも動かなくなつた。わたしはまた棒切れをその尾に当てる。すると棒切れがさわると始めてびっくりしたように又蠢めいた。ふしぎな生きものだと思つた。それから五分の後にもわたしは棒切れをさわらせたが、もう動くことがなかつた。そこには一杯の蟻が行列をつくつて、^L不意の祝祭のうたげのうたをうたつていた。

わたしは棒切れを捨てて、日かげで^M或る考へに思いついた。それはわたしの国ではとかげというものの尾が切れやすいのは、敵に遭つたときにその尾だけを残して逃げるように出来ていることや、一たん斬られた尾はきつと又継ついで行つて了うということ、それゆえ尾は小さい節のようなものから組立てられていることなどをわたしは年寄りから聞いていた。だから子供であつたわたしは人気がないときに、きつととかげが自分で自分の尾をこつそり継いでゆくことを、何よりも固く信じていた。それがどういふふうに継ぐのだから知らなかつた。

「とかげに指を差すな。さしたら指がくさつてしまう」
 子供のときは唯そう聞いた。が、わたしは今までに幾度か紫色をしているとかげに指を向けて差したが、腐りはしなかつた。ただ、わたしの知つたことは、とかげの尾が一ぺん切られたものが、もう一度尾をつぎに来るといふことも嘘であつたことだつた。なぜかと言へば、もうとかげの尾は蟻に引かれながら白い砂地の上に、すこしづつ動いて行くではないか?——それにも関わらず尾のない一疋のとかげが、砂地の白い遠方にかがんでその尾の冷たくなつたのを眺めている。わたしの疲れた暑い頭がいまその姿を見つけたのである。

「張りものが済んだらお茶を一杯もらいたいものだ。」
 「ここへでございますか?」
 「ここへ。」

わたしは途方もない詰らないことを言い出すくせがあるので、下婢はふしぎな思いもしないで、茶の間へ茶を淹れに行った。相変らず暑いうえに、乾いた砂の上に七八足くらいとかげが歩いて、可憐いらしい遊びようをしている。が、わたしは何時の間にか、尾のないとかげが非常にからだの調子が取れなくて、歩きにくそう

によちよち歩いているのを見た。そしてわたしの考えは気の毒な気がしたのだった。まるで他人がしたことのように思われるほど、先刻のわたしのしたことを遠い時のように思われた。「いたい夏の永い日にあったことと言うものは、永い日自体から忘れやすいものだ。朝のことが昨日のことに思われるから妙だ。」わたしはそう考えて、一杯の茶を庭のものかげで飲んだ。「例えばわたしが先刻あいつの尾を切ったときに、何か知ら悲壮な物哀しさを感じたが、いまはその考えが深増さるばかりではないか?」そうわたしはまた考えた。

翌日もわたしは可憐らしいとかげの遊びを見た。六七疋ずつ散らばって何かをあさっている姿が、一昨日よりも深く心に長閑にかんじられた。その中の一疋の尾のない奴が雑まじっているのが、わざとわたしの眼前をすずかに通りすぎた。

「気の毒なことをした。」

わたしはそう言って、わたしらしい良心を呼びさまし、そのことによって慰められようとした。かれはかれらしい無邪気さで、青い鬼であるわたしの眼の前を平気で歩いている。――

(室生犀星『とかげ』)

問一. 傍線部A～Jの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二. 傍線部②の「凝然」について

(1) 読み方を次の中から選びなさい。

がくぜん ぎぜん ぎようぜん しゃくぜん

(2) 意味として適当と思われるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア. びっくりしている様子
 イ. じつとしている様子
 ウ. なにか別のもののふりをしている様子
 エ. 落ち着きのない様子

問三. 本文中 ③ に入る適当なことを本文中から探しなさい。

問四. 傍線部④の「寂寞」について

- (1) 読み方をひらがなで書きなさい。
 ア. ひっそりとして、さみしいこと
 イ. 必要にせまられたこと
 ウ. 恐ろしく感じること
- (2) 意味として適当と思われるものを次の中から選び、記号で答えなさい。

問五. 傍線部⑤の「不意の祝祭のうたげのうたをうたっていた」とは、どのようなことか、本文中から30字程度で抜き出し、その最初と最後の5文字ずつを書きなさい。(解答に句読点は含まない)

問六. 傍線部⑥の「或る考え」とは、どのようなことか、本文中から40字程度で抜き出し、その最初と最後の5文字ずつを書きなさい。(解答に句読点は含まない)

問七. 傍線部⑦の「長閑」の読み方を次の中から選びなさい。

あでやか おごそか なららか のどか

【2】 次のカタカナの部分の漢字で答えなさい。

- ① 素直にアヤマル ② 操作をアヤマル
 ③ 技術 カクシン ④ 勝利をカクシンする
 ⑤ 意見のカクシンをつく

【3】 次の四字熟語には一文字間違いがあります。間違った字の右に正しい字を書きなさい。

- ① 異句同音 ② 夢我夢中 ③ 疑心暗気
 ④ 厚顔無知 ⑤ 半心半疑

【4】 ①～⑤の意味になるように、() 内に動物や鳥、魚の名前を入れ慣用句を完成させなさい。(ひらがなでも可)

- ① 数をごまかす () () をよむ
 ② 気が合う () () が合う
 ③ ほんのわずかなこと () () の涙
 ④ 立場の上の人の一言で、
 物事が決着すること () () の一声
 ⑤ 面積がとても狭いこと () () の額

【5】 次の①～⑤の外来語の意味を解答群から選び、記号で答えなさい。

- ① アイデンティティ ② エコロジ
 ③ カテゴリー ④ セオリー
 ⑤ テクノロジー

〈解答群〉
 ア. 理論 イ. 技術 ウ. 批判 エ. 生態学
 オ. 正統派 カ. 自己同一性 キ. 範疇

【6】 次の作品の作者を解答群から選び記号で答えなさい。

- ① 雁 ② 三四郎 ③ 和解
 ④ 夜明け前 ⑤ 細雪

〈解答群〉
 ア. 志賀直哉 イ. 島崎藤村 ウ. 谷崎潤一郎
 エ. 夏目漱石 オ. 森鷗外